



なの花薬局 石見大田店

方言も、文化も、街並みも。

私たちは「この地域の一員である」ことを大事にしたい。



ただいま
おかえり
あたりまえの日常、
その喜びを
届けるために。

地方であっても、質の高い薬物治療を。
薬局長の提案から、
医師を軸にした多職種連携が活発に。

島根県のほぼ中央に位置する大田市。世界遺産「石見銀山」を有し、日本海と中国山脈に囲まれた人口3万3千人ほどの市の中心部に、なの花薬局石見大田店はある。高齢化と過疎化が著しい速度で進むこの地域で、大田圏唯一の「健康サポート薬局」「地域連携薬局」として地域住民を支えている。

地方であっても質の高い薬物治療を提供したい。その思いから、土屋薬局長自らが行動を起こし、患者さま対応と並行し多職種と連携することに力を入れている。そうした行動力の源は「この地域の一員である」という誇り。島根県出身ではなくても、この地域を知り、方言や文化を理解しようとする姿勢と、想いを組んだサポートが、患者さまとの距離を縮めている。

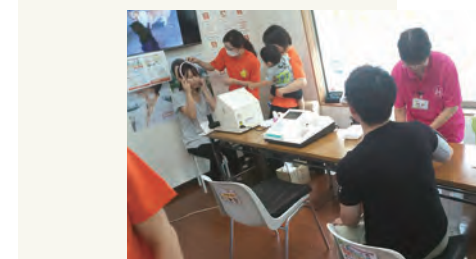


処方元の医師と
週次でカンファレンス



門前のクリニックは内科・神経内科・心療内科・漢方内科で、専門はパーキンソン病と認知症。県内屈指の漢方医でもある。医師との連携は土屋薬局長からの提案だった。毎週金曜、診療終了後の診察室でカンファレンスを行う。一週間の出来事や双方の依頼事を共有、トレーシングレポート持参で患者さまの対応を相談させていただく。片道40分をかけ、山間部などの医療過疎地へ往診同行することも。

地域の人みんなの
「かかりつけ」という意識で



病気や治療のことだけでなく、患者さまの生活環境や家族構成などをトータルに診ていくのが当たり前の地方の環境。石見大田店では「地域の人みんなのかかりつけ」という意識で患者さまをサポートしている。門前以外の医療機関から来局される患者さまも多く、薬剤師との会話を楽しみにしている方も。門前のクリニックと共催で「健康フェア」を実施、地域の健康増進にも取り組む。

食支援研究会、医療過疎地対策
多職種と積極的に連携



石見大田店は、高齢者の「食」や在宅生活を支えるために、健康寿命の延伸を目的とした「大田食支援研究会」に所属。医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、栄養士、ケアマネジャーなどの多職種が集まり、月1回症例検証を行う。また、「健康サポート薬局」「地域連携薬局」として保健所や市役所からの依頼や相談を受け、医療過疎地対策や企業の抗原検査キットの準備など、地域の健康支援体制の一翼を担う。



幅広い経験が
できる環境。
成長し、
各地で還元したい。

なの花薬局 石見大田店
福武 亮太 Ryota Fukutake
2021年入社

人と接することが好きで、患者さまや地域など様々な人と関われる薬局薬剤師を志望しました。「広域勤務」を選択し、入社直後は滋賀県、2店舗目が現在の島根県です。1店舗目は内科・消化器内科の門前、今は総合病院や大学病院からの処方せんも応需し、門前では漢方薬の調剤もあるほか、在宅訪問では個人や施設の患者さまを担当。幅広い経験ができる環境にやりがいを感じています。以前、「補中益気湯」という漢方薬の投薬の際、尿漏れに対して処方されていることを患者さまにご説明しました。ところが、ご帰宅後に患者さまがインターネットでお調べになり、「そんな効能はどこにも書いていない」と再来店されたのです。

処方元の医師は、県内屈指の漢方医。私から直接医師に確認すると、補中益気湯は妊婦の流産防止や膀胱症状に用いられ、筋肉を引き締める作用があると教えていただき、患者さまに丁寧にご説明することで納得いただきました。漢方薬の多岐にわたる作用の関係性を、医師から直接学べることは貴重な経験です。こうした医師との連携は、薬局長の積極的な働きかけがあってこそ。この環境に感謝しながら知見とスキルを身につけ、今は、どの地域でも対応できるジェネラリストになることが目標です。そして「広域勤務」の特性を活かし、薬局長から学んだことを全国の地域医療の質を高めることに還元したいです。



入社直後の配属は滋賀県

入社直後の配属は、滋賀県大津市、仰木の里店。まだ右も左もわからず、ピッキング→散剤、水剤、一包化→投薬の順に取り組んだ日々。毎日できることを一つずつ増やすことを目標にしていた時期。



入社半年後

半年後には、対物・対人業務ともに身につけ、店舗内の多くの仕事を任せてもらえるように。この頃から在宅訪問の患者さまを担当。先輩にアドバイスをいただきながら、契約段階から関わりました。



入社9ヵ月目で石見大田店へ

入社9ヵ月目、石見大田店に配属。滋賀も島根も縁のなかった土地ですが、新しい環境で働くことにワクワクしました。配属直後、出雲大社へ！方言・食・文化など、その土地の魅力に触れるのは楽しいです。



2年目になると…

調剤・投薬に加え、電話での服薬期間中のフォローや医師へのトレーニングレポートの提出、患者さまの入院時のお薬情報提出（薬薬連携）なども行っています。



医療安全ミーティング担当に

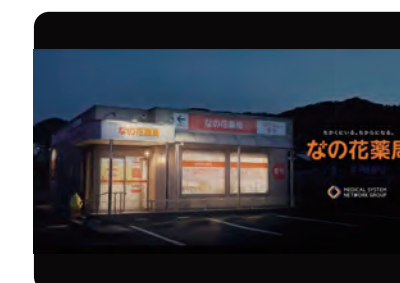
店舗の医療安全ミーティング担当として、報告書を作成・提出。また、全社で共有される医療安全に関する情報を店舗にフィードバックしています。自分から議題を挙げて話し合うなど、良い刺激を受けています。



心掛けていること

患者さまと談笑する時間をつくるようにしています。待合室で歩きづらそうにされているのを見かけてお声掛けすると、患者さまから体調に関して気になることを話してくださったことも。何気ない会話の中から大きな変化に気づける場合もあります。

TOPICS



私の勤務する石見大田店は、実はなの花薬局CMのロケ地です！

知っていましたか？なの花薬局のCM(動画)「一人ひとりのあかり」篇の最後に登場する「まちのあかり」の店舗は、石見大田店です！撮影の舞台裏を見る貴重な体験ができました！

患者さまからの
「ありがとう」の言葉と、
薬剤師からの信頼が、
大きなやりがいに。

なの花薬局 石見大田店 医療事務
林 奈美 Nami Hayashi
2013年入社



医療事務の中でも薬局業務に特化したこの仕事は、薬剤の基礎知識など専門性の高いスキルが身に付くことや、患者さまと近い距離感でコミュニケーションできることが魅力だと感じています。待合室でのヒアリングや会計時に、患者さまが不安なことを話してくださると、信頼していただけているのだと喜びを感じます。お聞きした内容を薬剤師に正確に橋渡しすることも、私たちの大事な役目。患者さまから「ありがとう」と感謝の言葉をいただいた時は嬉しく、大きなやりがいを感じる瞬間です。なの花薬局は温かい雰囲気、薬剤師の皆さんが医療

事務を信頼してくださることも、やりがいにつながっています。また、仕事と家庭の両立ができ、安定的にプライベートの時間を確保できることも魅力。休日は、中学生の娘の部活の試合観戦に行ったり、母娘でショッピングを楽しんだりしています。薬剤を取り扱い、処方せん入力など大切なデータを作成・管理する私たちの仕事は、人々の「命」に関わる仕事。そのことを日々忘れずに、患者さまとのコミュニケーションを大切にすることで、ここが「かかりつけ」だと思っただけの地域薬局にしていきたいです。



受付・会計業務

来局された患者さまを最初に対応する医療事務は、いわば薬局の“顔”となる大切なポジション。患者さまから処方せんや保険証、おくすり手帳を受け取り、保険証の情報や処方せんの有効期限などを確認。薬代を受け取る会計業務も担当します。



待合室でのヒアリング

患者さまが問診票を記入される際に、不明点をサポートしたり、待合室でヒアリングを行うことも。薬の副作用やアレルギーの有無、また、薬剤師がより正確に症状を把握するためのフォロー業務。チームワーク意識やコミュニケーション能力も大切です。



処方レセコン入力業務

受け取った処方せん内容を、レセプトコンピュータに入力。薬剤ごとに規格があり、処方せんの内容を漏れなく正確に入力することやチェック作業も入念に行います。また、月次で行う調剤報酬明細書(レセプト)の作成・請求も重要な業務。



薬剤師への報告・相談

患者さまが薬剤師にお伝えし忘れたことや、患者さまの対応で気づいた点などを、薬剤師に報告・相談。また、医薬品の期限管理や納品時の検品・入庫も行い、必要事項を連絡します。対物・対人業務ともに薬剤師が円滑に業務できるようサポートします。



ピッキング・一包化補助

2019年4月より医療事務(調剤補助員)は、処方せんに記された薬剤を棚から取り出すピッキングや一包化の補助作業が可能です。薬剤師の指示のもと、医薬品を取り揃えたり一包化の錠数を確認する作業。正確性を求められる業務です。



OTCの管理・陳列など

店内で販売しているOTC医薬品・医療用品・健康食品などの商品管理も担当します。患者さまがお薬の待ち時間に興味を持っていただけるよう陳列を工夫したり、品出しをしたり。処方せんがなくてもご来局・ご購入しやすいよう接客業務も行います。